155

S 状中隔と動脈硬化の関連について

◎片岡 恵莉子[1)]、川﨑 俊博[1)]、山形 久美子[1)]、金道 幸子[1)]、前田 理瑠[1)]、吉岡 紀葉[1)]、祖父江 瑞樹[1)]、上原 久美子[1)]
社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺心臓脳・血管センター[1)]

【背景】S 状中隔は心室中隔と大動脈腔の成す角度が鋭角になり心室中隔基部が S 字状に左室流出路に突出している状態を指す。これまでに S 状中隔は加齢とともに頻度が増すことが分かっているが、臨床的意義として病的意義は少ないという報告がある。しかし、S 状中隔は左室拡張機能低下の兆候であるとする報告や、脳卒中再発率が高くなるとの報告もある。また、高血圧との関連も報告されており、動脈硬化との関連が示唆されている。

【目的】S 状中隔が動脈硬化の危険因子になりうるか Cardio Ankle Vascular Index(CAVI)を用いて検討した。

【方法】当院を受診し、心エコー図検査と CAVI 検査を行った 44 例を対象とした。心エコー図検査は VividE9(GE Co.)と Aplio400(CANON Co.)を使用した。CAVI は VaSera VS-2000(FUKUDADENSHI Co.)を使用した。心エコー図検査にて S 状中隔が認められる患者を SS 群(n=28)、S 状中隔が認められない患者を非 SS 群(n=16)とした。左右 CAVI 平均値を CAVI 値とし、SS 群と非 SS 群とで有意差検定を行った。但し、CAVI 検査は心房細動で精度が低下するため、心電図検査で心房細動が認められた患者は除外した。また検査値の精度が高いものを選出するため、左右の CAVI 検査値の差が 5%以内のものに対象を限定した。さらに動脈硬化は加齢により進行するため、SS 群と非 SS 群との間で平均年齢に有意差が生じないようにした。

【結果】SS 群の CAVI 値は 9.47(平均年齢 76.8 歳)、非 SS 群の CAVI 値は 8.51(平均年齢 72.8 歳)であり、SS 群の CAVI 値が有意に高値となった($p<0.05$)。

【考察】S 状中隔の原因として大動脈の硬化や心室中隔の繊維性変化が報告されており、動脈硬化と関連があると推測されているが CAVI を用いた研究はされていない。今回、SS 群の方が非 SS 群より CAVI 値が高値であったことから、S 状中隔が認められる場合は動脈硬化の進行度合いが有意に大きいと考えられた。また、S 状中隔が加齢や高血圧による単なる形態的変化ではなく、動脈硬化進行の 1 つの指標になると考えられる。

【結語】S 状中隔と動脈硬化は関連がある可能性が示唆された。

0798-36-1880